



2019年10月21日

各位

会社名 株式会社島精機製作所

代表者名 代表取締役社長 島 三博

(コード番号 6222 東証1部)

(問合せ先) 取締役執行役員経理財務部長 南木 隆

(TEL 073-471-0511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2019年5月8日に公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期連結業績予想の修正

(金額単位:百万円)

(1)2020年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2019年4月1日~2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	23,000	400	700	600	16円90銭
今回修正予想 (B)	17,100	△2,700	△2,900	△2,000	△56円32銭
増減額 (B-A)	△5,900	△3,100	△3,600	△2,600	—
増減率 (%)	△25.7	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	28,197	4,343	4,628	3,312	90円73銭

(2)2020年3月期通期連結業績予想数値の修正(2019年4月1日~2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	52,300	4,000	4,400	3,300	92円93銭
今回修正予想 (B)	40,000	△3,600	△3,500	△2,400	△67円58銭
増減額 (B-A)	△12,300	△7,600	△7,900	△5,700	—
増減率 (%)	△23.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	51,352	4,638	4,991	3,835	105円62銭

2. 2020年3月期個別業績予想の修正

(金額単位:百万円)

(1)2020年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2019年4月1日~2019年9月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	18,100	100	100	2円82銭
今回修正予想 (B)	12,700	△3,600	△2,500	△70円40銭
増減額 (B-A)	△5,400	△3,700	△2,600	—
増減率 (%)	△29.8	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	20,878	2,971	2,302	63円07銭

(2) 2020年3月期通期個別業績予想数値の修正(2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	43,200	2,800	2,100	59円14銭
今回修正予想 (B)	32,500	△4,800	△3,300	△92円93銭
増減額 (B-A)	△10,700	△7,600	△5,400	—
増減率 (%)	△24.8	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	39,352	2,233	3,272	90円12銭

3. 修正の理由

当第2四半期累計期間におきましては、米中貿易摩擦の長期化などによる世界経済の先行き不透明感や環境意識の高まりからアパレル商品の生産数量が抑制され、中国、バングラデシュ、ベトナムなどのアジア地域のOEM型生産工場を中心に大量生産型のコンピュータ横編機の設備投資が低調となりました。

また設備投資マインドの低下は近年中国市場を中心に順調に拡大していたホールゲーム横編機の投資にも影響し、売上げを伸ばせませんでした。こうした傾向はアパレルデザインシステムや手袋靴下編機の販売不振にも及びました。このような当期間における厳しい市場状況は期初の売上計画に織り込んでおりましたが、全体の売上高は当社の想定を大きく下回る見込みとなりました。

また低迷する市場環境を受けて同業他社との価格競合も厳しさを増したことや、期間の売上げ平均為替レートが期初想定レートの1ドル110円から108.78円に、1ユーロ125円が120.87円と円高で推移したことなどで、横編機を中心に平均販売単価が期初想定よりも下落しました。加えて在庫調整による工場操業度の低下から売上総利益率が連結ベースでは期初想定43.5%から36.7%に6.8ポイント、個別では34.8%から25.3%に9.5ポイント悪化しました。この結果、売上総利益は連結ベースで期初想定100億円に対して62.8億円と37.2億円の未達が見込まれ、個別では想定63億円に対して32億円と31億円の未達が見込まれます。

さらに、トルコにおける通貨安および金融引き締めの影響で同国顧客の資金繰りが悪化したことで、同国販売代理店向け売上債権の決済期日を繰り延べるとともに貸倒引当金5億63百万円を販売費及び一般管理費に繰り入れることにいたしました。また、円高の影響により営業外費用に約5億円程度の為替差損を見込んでおります。

これらの要因の結果、全体の売上高及び各利益段階(連結・個別)とも期初予想を大きく下回る見込みとなりました。また下半期においても当初計画を下回る状況が見込まれることから通期の業績予想についても合わせて修正いたします。なお、下半期における想定為替レートは1ドル105円、1ユーロ115円としております。

注) 上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上